

令和7年度神奈川県立県民ホール及び音楽堂
指定管理業務実績評価委員会 議事録

日時：令和7年8月5日（火）9：30 ～ 11：30

場所：神奈川県立県民ホール 5Fセントラルルーム

出席委員：草加委員（委員長）、垣内委員（副委員長）
高野委員、立石委員、古海委員、松江委員

1. 開会

- ・傍聴者の確認（傍聴希望者なし）
- ・文化課長あいさつ
- ・委員の紹介
- ・資料及び議事の確認

2. 評価項目について

【草加委員長】

本日の次第「2 評価項目について」事務局から説明をお願いする。

（評価項目について事務局より説明）

【草加委員長】

ただいま事務局から説明があった内容について、質問や意見はあるか。

（質問及び意見なし）

3. 実績について

【草加委員長】

次に、次第「3 実績についての説明」に移る。

「Ⅰ.サービスの向上」「Ⅱ.管理経費の節減等」「Ⅲ.団体の業務遂行能力」について、指定管理者である公益財団法人神奈川芸術文化財団（以下、「財団」という。）から説明をお願いする。

（令和6年度の事業実績について財団より説明）

（「Ⅱ.管理経費の節減等」については事務局で評価入力済みであるため説明省略。）

【草加委員長】

短い時間でたくさんの報告事項があったように思う。これまで説明があった内容について委員の方々から御質問を受けたい。順不同で御発言願う。

【垣内副委員長】

令和6年度は新型コロナウイルスの影響から回復してきた状況の中、県民ホールという基幹施設のフィナーレを飾る年であり、大変ご苦労もあったと思う。3点お尋ねしたい。

1点目は事業の内容について。多くの受賞をされており、評価が高かったということは大変嬉しいこと。資料6の14ページを見ると「リア王の悲劇」が15公演で約4,000人と、それなりに入っているがまだ伸びしろがある。国際共同制作の「品川猿の告白」は非常に面白い試みであり、私も拝見させていただいたが、こちらも10公演で約1,700人と少しもったいない。「ライカムで待っとく」も10公演で約1,600人であり、せっかくの企画なので、できるだけ多くの方々、特に次代を担う若い方々に見てもらったほうが良い。県民割の設定など様々なご苦労をされているかと思うが、できるだけ多くの人に舞台の良さを知ってもらおうという観点から、まだ潜在的な可能性があると思う。今どんなことをされていて、それをどんなふうに分析し、どこをどう直そうとされているのか。特に令和6年度にご苦労された点があれば教えていただきたい。

2点目は社会連携ポータルとも関係する。休館直前の県民ホールを訪れた時、ホワイエの年表を見ながら、私の祖父はこの頃に来たとか、お母さんはこの頃に来たとかお話しされているお客さんを目にした。（県民ホールが）県民に定着しているなどと思う反面、近くの方はすごく親しみがあったと思うが、県全体としての認知度や訪問した経験などはどうだったのか。もし何か調査されたものがあれば教えていただきたい。社会連携ポータルや全県展開を始めた理由の一つも、そのあたりの地域間格差があったのではないかと思うので、現状認識を教えてほしい。

3点目。労働基準監督署からの是正勧告について、3年間遡及して60人以上にお支払いすると結構な金額かと思うが、1人当たりどのくらいのお支払いだったのか。ざっくりで結構だが、教えていただきたい。

【財団（堀内神奈川芸術劇場支配人）】

1つ目の質問について、御指摘いただいた3公演のうち「ライカムで待っとく」と「品川猿の告白」は大スタジオという会場での上演。大スタジオは最も客席を大きくとった場合で222席、演出上舞台を小さくすると160席。両公演とも160席+αのキャパで、10日から2週間程度の期間で上演した。類似公演での集客や公演数、それに係る経費など、様々なことを勘案してバランスをとりながら設計をしている。御指摘いただいたように、もう少し多くのお客様に見ていただけるよう、長期にわたる公演の検討、あるいはそうする勇氣が必要かもしれない。一方で昨今「推しの文化」と言われるように、推しの方が出演する公演を選

んで見に行かれるお客様が非常に多い。両公演とも、そういった現状を変えていくつもりで企画しているが、収支均衡も含めて、現状そういうバランスになっている。いただいた御指摘はしっかり受けとめ、少しでも多くの方に見ていただけるようにしたい。

「リア王の悲劇」についてはホール公演だったため、当初はもう少し大きな規模感を想定していた。クリエイティブリーダーである藤田俊太郎さんと企画を進める中で、木場克己さんを主演に据え、仮設の客席を使うことになった。芸術劇場のホールは劇場の形を様々に変えられるところが特徴であるため、それを生かすよう公演を設計した結果、数百席という客席での上演という形になった。非常に難しい部分だが、作品はアーティストの方と一緒に作り上げるものであるため、その意向を汲みながら、新しいものを作っていただくということを考えている。また、より多くの方に作品を届けるといこととのバランスをどう取っていくのかという意味で、本作は非常に良い学び、経験になった。これからも劇場の運営の中で考えていかなければならないことであり、いただいた御指摘は真摯に受けとめ、改善できるところやその方法を探していきたい。

【財団（香川専務理事）】

2点目について、アンケートでは県民ホールの来場者にどの路線を使ったかをお尋ねしているが、どこからいらしているかという財団での統計はない。体感としては委員御指摘のとおり、横浜の方は多いと思う。どなたに聞いても、歴史が50年あるので行ったことはあるとおっしゃる。毎年行われるコンサートや、吹奏楽の大会、式典、稽古ごとの発表、ギャラリー展示など様々で、見に来るだけでなく、神奈川県民の様々な文化活動のステップの上に県民ホールがあると、皆様に認識していただいていたのではないかと考えている。これは、休館に際して寄せられた「昔行ったことがある」「久しぶりに行きたい」などの声を受けて感じたことだった。再整備にしばらく時間がかかるが、お客様にはこの気持ちを持続けていただきたいという思いがあり、県と相談の上、県内で文化事業を展開することになった。今年度については、「神奈川県民ホールプレゼンツ」というタイトルをつけ、オペラは藤沢市、神奈川フィルハーモニー管弦楽団は伊勢原市と南足柄市、ガラコンサートは鎌倉市と小田原市、海外からの招へい公演はイギリスから合唱団を呼んで相模原市、そのプレワークショップのようなことを海老名市など、全市町村で何かしらできるようにしたい。県民ホールの活動が続いていると思っていただき、各市町村で公演を見た人に、未来の新ホールのお客様になっていただく。そんな気持ちを持って取り組んでまいりたい。

【財団（塩田事務局長）】

3点目にご質問いただいた、3年間遡及して支払った割増賃金の1人当たり平均額について、支給総額が3,271万8,420円で、それを支給人数61名で割ると、単純計算で1人当たり平均が53万6,367円になる。

【高野委員】

先ほどの質問と被るが、前から思っていたことがある。例えば、芸術劇場について、芸術賞をとるなど非常に評価が高い演目があるが、その再演をあまり聞かない。芸術劇場は常に新しいものやるという方針なのか、疑問を持っている。私は「リア王の悲劇」を見たかったが見られなかった。見逃したけど見たい、あるいは評判だから皆さん来てくださいという、県民に広く芸術を見てもらう機会にするという意味でも、そういうのがあってもいいと思う。財団の方針との兼ね合いでやっていないのか。ガラコンサートを定期的に開催しているように、それ以外の評価が高いものの再演はないのか。

【財団（堀内神奈川芸術劇場支配人）】

再演は積極的に取り組んでいるつもり。先ほどお話があったうち、「ライカムで待っとく」は令和4年度に公演し、その再演だった。初演で読売演劇大賞を受賞し、直後から必ず再演してほしいという声を多くいただいたため計画した。そのほかにも、次年度以降に再演予定のものがある。これまでも長塚芸術監督就任以来、毎年1演目ないし2演目の再演を行っている。好評を呼んだ、こういう価値があるということの広報が少し足りなかったかもしれないので、より積極的に広報を行いたい。

【高野委員】

「ライカムで待っとく」は非常に良かったので、友人に勧めたが、上演期間が終わっていたということがあった。

【財団（堀内神奈川芸術劇場支配人）】

「ライカムで待っとく」は作家を発掘するところから始めた、非常によい財産であると思っている。思い付きの段階ではあるが、さらなる再演も検討できればと考えている。

【草加委員長】

2つ質問をする。1つ目が資料3の2ページ。県民ホールは、休館予定のため大きな施設、設備修繕改修は行わなかったとあるが、今後も含めて、この施設をどう使っていこうとしているのか。事務所に人がいるが、ホールは一切使わないということか。雨漏りをしており、舞台設備や空調は停止しているが、今後、どう活用していくのか。そのあたりの方針を伺いたい。

【文化課（宮崎県民ホール再整備担当課長）】

去年の11月に建替えの方針を表明しており、現在、休館に向けての準備を進めている。そのため今年度いっぱいホール等の施設については、施設利用という面では使用しない想定である。

【財団（香川専務理事）】

今年度末までが第4期指定管理期間であり、休館準備をしているためお客様は一切入れていない。ただし、県民ホールに残っている様々な物品について、まだ使えるものもあるので、県立の文化施設を含む各施設、市町村などの施設の皆様に見ていただき、使えるものは有効活用していただこうと取り組んでいる。様々な楽器や機材があり、結構引き取っていただけるのではと思っている。その上で廃棄処分に移る想定。事務室は現在そのまま使っているが、1月頃までには退去し、建物を県に返す。県の条例上も、令和8年4月からは県の直営施設に戻すという決定がなされており、その後は県で除却、再整備に向けた手続きに入ると認識している。

【草加委員長】

2つ目は事故不祥事の対応について。サイバー攻撃は、見方によっては財団が被害者である。誰かがそのウイルスを開いてしまったという意味では過失があるのかもしれないが、判断がすごく難しいと思う。また、超過勤務分の未払いも、労働基準監督署から何十年も指摘を受けてないという意味では財団が被害者ともいえる。ただ実際には、退職者も含めて、本当はもらえただろう賃金がもらえなかったということから言うと、個人としてはその人も被害者だろうと思う。長時間労働については、様々な労務管理を行っているにもかかわらず、あるところで100時間を超えてしまった。私も、良いものを作るためには超過勤務なんていうのは考えないで最後までやる、というのが当たり前の中で劇場に関わってきた。そういうのが染み付いている世代。100時間であろうと200時間であろうと関係ないと思う反面、今の労働基準の中ではあってはならないこと。一番監視をしなくてはならない部分が抜けているというのは、やはり財団の管理体制のどこかに落ち度があったんだろうと思う。以上のことから、この3つはすごく重大な事案だろうと思う。それをどう反省していくのか。また、公益法人としての説明責任があるだろうと個人的には思う。すべてが終わっているわけではないが、少なくともサイバー攻撃に関しては新聞報道もされ、事態としては公表されていると捉えることができる。あとの2つに関しては、事態が落ち着いているか明確ではないため、今後の情報の公開についてどのように考えているか、お聞かせいただければと思う。

【財団（香川専務理事）】

御指摘の通り重大な事案であったと思っている。サイバー攻撃については、攻撃する方が悪いというのはあるが、攻撃の可能性があるので、それを受けないよういかに対策を取り、被害を避けるかということが財団に求められていると考える。原因をしっかりと調査する必要があるということで、フォレンジック調査をお願いしているところ。まだ最終結論が出ていないが、外国から攻撃を受けたということは確認できている。ただ、財団サーバーが全て破壊されてしまっており、どこまで解明できるかわからない。攻撃を受けた端末が特定で

きるかもしれないと言われており、その端末の何がいけなかったのかを確認していきたいと思っている。このことについては、調査が整った時点で一定程度公開することを考えている。業界の皆様からも、いろいろと情報を教えてくれと言われており、業界団体ともお話ができたかと考えている。新ネットワークのセキュリティ対策といった専門家の方がやることだけでなく、そのセキュリティ対策を日常的に維持、運用していく私たち財団職員のリテラシーも大事にして取り組んできた。研修体系など、全体像をここでもう一度見直していこうという話を内部でしている。職員にはこの間、メールをすぐに送れない、パソコンによってプリンターを使い分けるような非常に不自由な環境で、事業を止めない、皆様にご迷惑かけないということでやってきた。本当に感謝している。労務については、長期の未払いが生じてしまった。財団が年俸制を導入したのが平成 10 年で、年俸制の割増賃金に月給だけでなく、賞与や退職金相当額も加算することを国が定めたのが平成 12 年。20 数年前の話であり、なぜこれまでわからなかったのか調べてもわからないというような状態。委員長にも御指摘いただいているが、その間税理士や社労士にも見ていただいております、労基の調査も何度か受けた。それでもわからなかった。とはいえやはり財団がしっかりと自分たちの規程が現在の労基法にあっているか常にチェックをする。日常的にはきちんとやれていることは確認していただいたが、悉皆の確認ができていなかったということ。何年かに一度やれば、20 年も経ってから御指摘を受けるようなことにならなかったのではないかと。理事長に報告した際も、一度財団が持っている規定やガイドラインなどが時代に合っているのか見直すよう指示を受けている。膨大なので少しずつではあるが、時代の要請に合ったものに変えていく必要があるということを考えている。100 時間超の時間外が令和 4 年度に発生してしまったことは、言い訳のしようがない。職員の働き具合をいかに把握して時間超過をしないか、もしくは、特定の職員に負荷がかからないような業務分担をするといったマネジメントをしっかりとしていけないといけない。事情は諸々あるが、そうであってもこういった事態は生じてはいけないということを、経営層はもちろん、財団に関わる者皆で考えていかなくてはいけないと思っている。今後の取組については、職員にも関わってもらいながら、こうやれではなく、みんなでどうしていこうというような運営を考えている。この労働法の関係については、支払いはまだ終了しているが、考え方についてまだいくつか御意見をちょうだいしているところであり対応中。こういった事案があったということは隠すものではないため、今日のような公開の場でも御報告している。職員及び関係者の方々の御理解を得られた段階で、見える場所に出すということを考えている。これからも職員が働きやすい環境、ここで作品を作って県民の皆様楽しんでいただける仕事ができる環境を作るということを進めていきたいと、改めて強く思う事案だった。

【草加委員長】

聞きにくい話、答えにくい話を丁寧に説明していただき感謝申し上げます。どちらが加害者、被害者ということではなく、今後とも財団が社会的に信頼のある組織になるよう心がけて

いただければと思う。

4. 委員による意見交換

【草加委員長】

次は「4 委員による意見交換」に移る。「(1) 委員によるモニタリングについて」事務局から説明をお願いします。

(委員によるモニタリングについて事務局より説明)

【草加委員長】

委員の皆さんから、事業モニタリングについて追加で何か話したいことはあるか。

(委員からの追加質問なし)

【草加委員長】

それでは指定管理者の事業実績に対する評価に移る。評価の方法は、この場で私が評価項目を読み上げるので挙手をお願いし、その人数を記録していきたいと思う。合議ではあるが、それぞれの評価項目は一番評価が多いものを優先してその項目の評価とする。

まず、「I.サービスの向上」の「1 指定管理業務実施に当たっての考え方、運営方針等」「(1) 指定管理者としての基本方針等」の評価をお願いします

S 評価 1 名

A 評価 4 名

B 評価 1 名

A 評価の方が多いので、A 評価とする。

【草加委員長】

次に「2 施設の維持管理」「(1) 施設及び設備の維持管理に関する業務」の評価をお願いします。

A 評価 6 名

全員 A 評価なので、A 評価とする。

次に、「3 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金」「(1) 3 館一体運営を踏まえた事業実施、サービス向上等の取組」「(2) 県の文化行政と一体となった自主事業の実施に関する業務」「(3) サービス向上及び利用促進の取組」の評価をお願いします。

S 評価 5 名

A 評価 1 名

S 評価の方が多いので、S 評価とする。

次に、「4 事故防止等安全管理」「(1) 通常時の安全管理」「(2) 緊急時の対応」の評価をお願いします。

A 評価 6 名

全員 A 評価なので、A 評価とする。

次に、「5 地域と連携した魅力ある施設づくり」「(1) 地域との連携、地元企業への業務委託等」の評価をお願いします。

A 評価 6 名

全員 A 評価なので、A 評価とする。

「II.管理経費の節減等」「6 節減努力等」「(1) 事業計画等との関係」については、先ほど事務局より説明があったとおり。

次に、「III.団体の業務遂行能力」「7 人的な能力、執行体制」「(1) 執行体制及び委託業務のチェック体制」「(2) 人材育成、労働環境確保等」の評価をお願いします。

A 評価 6 名

全員 A 評価なので、A 評価とする。

次に、「8 財政的な能力」「(1) 財務状況」についてだが、まず高野委員に助言をいただき、そのうえで評価をお願いしたい。

【高野委員】

財務の専門家の立場から、少し意見を述べさせていただく。この項目の評価の視点は「安定した指定管理業務の実施を判断する指標としての団体等の経営状況、団体等の事業の継続性・安定性の度合い、団体等の事業の信頼性の度合い」となっており、これを決算書等により判断するということになっている。令和 6 年度決算書の貸借対照表を見ていただくと、色々なポイントがあるが、一番大きなポイントである「負債及び正味財産合計」が約 15 億 4,500 万円。その上の「正味財産合計」が約 10 億 9,000 万円。一般企業でいうところの自己資本比率が単純計算で 70%程度と非常に優良。一般正味財産増減計算書は一般企業でいうところの損益計算書にあたるが、当期は赤字になっている。休館に伴う様々な企画準備や人件費、諸経費の高騰など色々な理由があると思うが、赤字は赤字なので、事業の継続性という意味では少しマイナス。以上を総合すると A 評価であると考えてる。

【草加委員長】

高野委員の評価を踏まえて、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

A評価 6名

全員A評価なので、A評価とする。

【草加委員長】

次に、「9 コンプライアンス、社会貢献」「(1) コンプライアンスのための体制」「(2) 環境への配慮」「(3) 障がい者等への配慮」「(4) 社会貢献活動等への取組」の評価をお願いする。

A評価 6名

全員A評価なので、A評価とする。

次に、「10 事故・不祥事への対応、個人情報保護」「(1) 事故、不祥事への対応、個人情報保護」の評価をお願いする。

A評価 1名

B評価 5名

B評価の方が多いため、B評価とする。

最後に、「11 これまでの実績」「(1) 管理運営等の実績」の評価をお願いする。

A評価 6名

全員A評価なので、A評価とする。

最終的には「S」評価が1項目、「A」評価が9項目、「B」評価が1項目であった。以上の評価を踏まえて総合評価を決定したい。

A評価 6名

全員A評価なので、A評価とする。

(異議なし)

総合評価は「A」とする。

最後に、皆さんから令和6年度の実績について一言ずつご発言いただきたい。

【松江委員】

箇条書きにしていいただいても1年間でこれだけたくさんの資料になるというのは、皆さんの業務量がたくさんあったことの表れだと思う。いろいろと細やかにお聞かせいただき大変勉強になった。昨年度委員会があったときは、まだ県民ホールの行く末が決まっていな

かったが、その後知事のご発言があり、再建が決まり、すぐにご一報いただき本当に感謝している。今年の 5 月から策定委員会が始まっているということで、毎月活発な議論をされているのも議事録で拝見している。先ほど香川専務理事がおっしゃった通り、県下の皆さんの文化活動のステップ上に必ず県民ホールがあり、皆、再建を待ち望んでいると思う。より良いホールになることを願っている。鑑賞サポートなど、世の中的に課題とされていることすべてに取り組んでいらっしゃると考えても過言ではない。県の施設として、市町村の皆さんもそれを指標として活動されていくと思うので、これからもこのまま続けていただければと思う。

【古海委員】

先ほど資料 9-1 と 9-2 の説明の際、かなり（委員が随時モニタリング公演に）行っているとコメントがあった。去年この委員会に出た時に一番見てびっくりしたのがこの資料で、とても参加されている方が少なく、そのことについて発言した。今年は去年に比べるとかなり増えており素晴らしいと思う。しかし、全体では延べ約 100 人（17 公演×委員 6 名）であり、延べ 43 人ということはまだ半分も行っていない。これは我々委員の問題ではあるが、それでも去年に比べると相当増えたのは良いことだと思う。資料の中でよく出てくる「3 館一体」という言葉は最初からあるコンセプトだと思うが、3 館のうち 1 館が一時的ではあるがなくなってしまった。今年の随時モニタリング公演一覧を見たときに色々な場所で開催していて疑問に思っていたが、説明いただいてよくわかった。とはいえ、やはりメインとなるのは芸術劇場と音楽堂だと思う。提案書にそれぞれの役割が書かれている。県民ホールは上質でバラエティ豊かな事業展開。芸術劇場は創造型劇場としての多様なプログラムの展開。音楽堂は音楽専用ホールとしての音楽事業展開。来年以降になると思うが、これにとらわれることなく、例えば音楽堂で音楽以外のイベントをもっとやる、芸術劇場で音楽のイベントをやる。芸術劇場はとても良いホールで、人の声がすごく通る。楽器を持ってもおそらく素晴らしい効果があると思う。結局、音楽を聴きたい人は音楽堂に行くが、音楽をやるから芸術劇場に行かない、その逆もある。そこに行ってみて初めて良さがわかることもあるので、音楽が好きな方や劇が好きな方がそれぞれ違う劇場などに行って、ここもいいたとわかるような取組をすると全体の底上げに繋がって良いのではないかなと思う。

【垣内委員】

いずれの施設も老朽化が進む中、特に県民ホールは涙ぐましいような努力をされて、最後のフィナーレまで持っていったことに感謝するとともに、高く評価したいと思っている。あわせて、非常に攻めた舞台制作、多様で多彩で先端的な様々な舞台を提供すると同時に、そのアウトリーチやセミナー、社会連携ポータルに大変大きな期待をしている。3 館連携を進めてきた中、県民ホールが休館ということで、非常に懸念されるところもあると思うが、ピンチをチャンスに変えて、このリードタイムをいかにうまく使って次の段階につなげてい

くのか、ぜひ頑張っていたきたいと思っている。また、いくつかのコンプライアンス、労基関係の課題については、結果責任を負わなくてはならないという部分があるかと思うが、きちんとフォローアップをしているということで、私自身はあまり心配していない。サイバー攻撃については、施設の運営や公演事業が止まらなかったというのはやはり素晴らしいことだと思う。今年度はこの県民ホールの施設がなくなる中で、「神奈川県民ホールプレゼンツ」というような形でソフト事業を全県展開していくことに非常に大きな期待をしている。

【高野委員】

意見が重なるが、財政面も含めて厳しい状況の中、非常にご苦労されながら充実した事業を遂行していただいているのは非常に評価されるべきものだと思うし、私自身も評価している。少し心配なのは、不祥事の対応。当然、法令に書かれたものは遵守しなければならないが、ルールを固めすぎると現場がかえって動けなくなることがある。そのあたりの傾合いがなかなか難しい。労務もサイバー攻撃についてもそう。100%サイバー攻撃を防ごうと思うと膨大なコストがかかり、かつ非常に運用しづらくなってしまう。そのあたりのバランスはやっぱり大事だと思う。労務についても、労働時間が多い職員は来るなどしてしまうとなかなか難しい面もある。現場は現場の中の人間関係で動いている部分があるので、そのあたりを十分に見ながらうまくやってほしい。時代に合っていない規定を見直すことは大切だが、固めすぎるのも良くない。

【立石委員】

令和6年度も1年間お疲れ様でした。良くも悪くも非常に盛りだくさんの年だったと思う。「ありがとう県民ホール」に関しても、本当に短い準備期間で多くの事業に取り組んでおり、多くのお客様にお越しいただくことができたというのは、県民ホールの歴史と、財団の専門性の賜物であると思う。県民ホールは休館したが、芸術劇場や音楽堂については、他の劇場に影響を与える、レファレンスされていくような取組をこれからも継続してほしい。また、社会連携ポータルを取組についても、県内のみならず数多くの公立文化施設が注目していると思う。社会連携ポータルを取組は、聞こえない・聞こえにくい方とのコミュニケーション講座、学校教育との連携、グリーンシアターワークショップなど社会的インパクトをもたらすことができる。特にグリーンシアターワークショップは環境問題だけでなく、産業や教育など様々な分野に社会的インパクトをもたらすことができる取組だと思う。サイバー攻撃を受けた際にはとにかく活動を止めなかったということで、誰が一番の受益者であるのかということをよく考えられている。今後も、関係者だけでなく、業界の人たちにも注目されるような取組を続けてほしい。

【草加委員長】

これだけの資料をまとめていただき感謝申し上げます。よくまとまっており、財団の素顔が見えるような気がした。事故はゼロに近づけることはできても、ゼロにはならないので、発生した事故をどう処理するかという、事後処理の能力が組織には必要だということを改めて感じた。事後処理をどうするかという問題は、専務理事だけの仕事ではなく、それぞれの担当の仕事でもあるということを改めて認識した。利用率が 80%以上あった県民ホールが休館してしまい、利用者は今どうしているのか心配している。芸術劇場や音楽堂が幾分支えているのだろうが、そうであっても多くの方々が困っていると思うので、何かフォローができないかと思う。立石委員がおっしゃったように、事業だけでなく、社会連携ポータルを筆頭に公益財団としての仕事もたくさんやられていると思う。これだけ、たくさんの仕事をしながら作品を創るというのは、とても大変だと思う。そんな中で、超過勤務が 100 時間を超えてはいけませんが、特に古い世代はやらずにはいられないという人も中にはいる。それがあるってはいけない世の中になったということを認識していかななくてはならない。それをどうリカバーするかということも、劇場運営の中で問われていくのだろうと思う。単に良いものができればいいのではなく、良いものを安全に、安心して作れる体制をどう作っていくのか。単に人を増やせば良いのか、その辺りのことも含めて考えなくてはならない。私もとある財団にしばらくいたが、往々にして財団規程は古びている。毎日ハンコを 50 も 60 も押さなきゃいけないやり方も、そろそろ考えていかななくてはならない時代になったのではと思う。財団規程の見直しは、ひょっとすると一番の急務なのかもしれない。色々申し上げたが、この財団の事業は全国的にも関心を持たれているので、そのことに誇りを持っていただきたい。これまでの取組を継続しつつ、進化していくこと。芸術監督がそういう風向きの方なので心配はないが、とにかく、日本の演劇界、音楽界をリードしていただきたい。そういう公立ホールになっていただくことを期待している。

5. 閉会

- ・委員会報告の取りまとめ方法
- ・事務連絡
- ・閉会あいさつ